

## ■ 会社の概要

(2012年10月31日現在)

社名  
英文社名  
本社

アルプス電気株式会社  
ALPS ELECTRIC CO., LTD.  
〒145-8501  
東京都大田区雪谷大塚町1番7号  
TEL. (03) 3726-1211(大代表)  
(03) 5499-8026 (IR部門直通)

設立  
資本金  
発行済株式総数

1948年11月1日  
23,623,571,711円  
181,559,956株

## ■ 株主メモ

事業年度  
基準日

毎年4月1日から翌年3月31日  
定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日  
期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日  
中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日  
その他あらかじめ公告して定めた日

定時株主総会  
公告掲載

毎年6月下旬  
電子公告により、当社ホームページ  
(<http://www.alps.com/j/ir/index.html>)に  
掲載します。なお、やむを得ない事由により、  
電子公告ができない場合は、日本経済新聞に  
掲載します。

上場証券取引所  
1単元の株式数

東京(第一部) 証券コード 6770  
100株

株主名簿管理人及び  
特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
ホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

## 【ご注意】

- 住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## ■ 株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター  
お問い合わせ ☎ 0120-232-711  
(受付時間：土・日・祝祭日を除く平日9:00～17:00)  
住所変更等諸届用紙ご請求 ☎ 0120-244-479 (24時間受付)

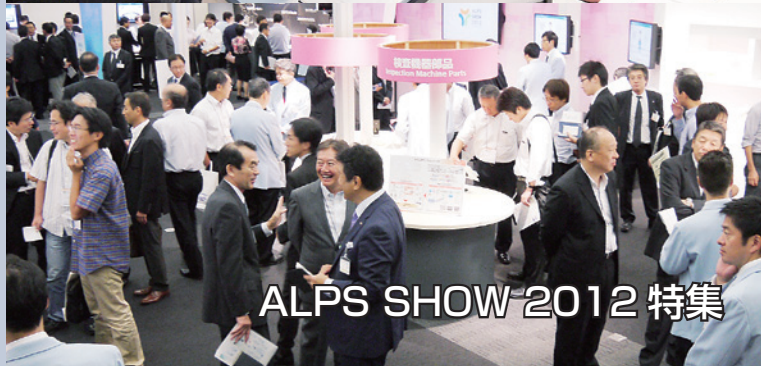
美しい電子部品を究めます

**ALPS**

# ALPS REPORT

第80期 第2四半期報告書  
アルプス電気株式会社 2012年11月29日発行

# No.149



皆様へ

# Top Message



代表取締役社長

栗山年弘

年の瀬が近づき、朝夕の冷え込みが厳しくなってきましたが、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

当上半期における世界経済は、欧州において財政危機の深刻化によるマイナス成長に陥り、米国は雇用改善の遅れなどで回復基調が緩やかになり、また、中国やインドなどの新興国では、輸出や投資が鈍化して経済成長率が下がるなど、全体的に景気減速懸念が強まりました。日本経済におきましても、これら海外経済の不安定感や長期化する円高の影響などから、景気回復には至らず、依然として厳しい状況が続いております。

当エレクトロニクス業界におきましては、世界景気の低迷に加え、新興国メーカーの台頭などが影響し、テレビやパソコンなどのデジタル民生機器向け電子部品が伸び悩みました。

この結果、当上半期の業績につきましては、円高基調が続いている影響もあり、売上・利益ともに期初に立てた予想を下回る結果となり、下半期の業績につきましても、スマートフォン向け製品の売上は上向くものの、民生市場全体では厳しい状況が続くと予想されることから、業績予想の下方修正を行いました。

これに伴い、当初予想した利益を達成できない見通しであることから、予定していた配当金を減配するに至りましたことは、株主の皆様大変申し訳なく思っております。

世界の経済状況が大きく変化するなかで、当社の事業

環境も依然として厳しさが続くものと予想されますが、これまで以上に新規顧客や新市場の開拓を積極果敢に行い、引き続き構造改革の推進による企業体質の強化に取り組んでまいります。

さて、去る9月に、2年に一度のプライベートショー「ALPS SHOW 2012」を本社ビルで開催し、前回の来場者を大きく上回る多くのお客様が来場され、大変な盛況となりました。

スマートフォンや車載市場へ、さらに環境・エネルギーやヘルスケアの新市場に向けて、当社独自の材料技術や微細加工技術、薄膜技術などの優位性を活かし、各種の入力デバイスやセンサ、通信技術を融合した新製品を数多く出品して高いご評価をいただきました。

また、抽選によりご招待した個人株主の皆様にもご来場いただき、あわせて株主様説明会を行いました。

「ALPS SHOW 2012」にて出品した、さまざまな新製品を受注に結びつけるべく、現在、全社一丸となって拡販活動を進めており、業績向上に向けた取り組みを加速させる所存です。

皆様には、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012年11月

去る9月20日・21日の両日、お得意先様や業界関係者の方々を対象に、プライベートショー「ALPS SHOW 2012」を本社で開催しました。

「未来を、もっと快適に、もっとスマートに。」というテーマの下、当社がビジネス拡大に力を入れている「オートモーティブ」「スマートフォン」「ヘルスケア」「環境・エネルギー」の4つの市場に主眼を置いて、当社の新製品・新技術をご提案し、多くのお客様で賑わいました。

## 重点展示



### オートモーティブ Automotive

次世代コックピットをイメージしたデモ展示により、安全で快適な操作環境を実現する当社製品を体感いただきました。



### スマートフォン Smartphone

スマートフォン向けに「デザイン」「ユーザビリティ」「アプリケーション」を追求した豊富なバラエティを展示しました。



### ヘルスケア Healthcare

医療ICTやクラウド活用などにより、病院内から生活空間まで、ヘルスケアの機器展開に向けたソリューションをご提案しました。



### 環境・エネルギー Environment & Energy

xEMS（エネルギー・マネジメント・システム）をイメージし、電流センサ＋無線技術モジュール化技術をご紹介します。



特集

未来を、もっと快適に、もっとスマートに。

# ALPS SHOW 2012



# 快適でスマートな暮らしを実現する、アルプス電気の製品



## [4つの重点展示の特徴]



### オートモーティブ Automotive

コックピットデモを用いて次世代のHuman Machine Interfaceを体感いただける展示を行い、ドライバーの利便性や安全性の向上を両立する、新たな「マルチモーダルコマンド」などをご提案しました。このデバイスは、動作予測による複数のガイド機能を持ち、ドライバーの意図を検知して最適な操作入力方法を提供します。



### スマートフォン Smartphone

新開発の「静電式タッチパネル (F2 センサ)」は、ITO フィルムに独自の電極配線パターンを施すことで、薄型化と原材料費の低減を可能にしました。当社は、高いデザイン性やユーザビリティ、多様なアプリケーションへの対応など、スマートフォンに求められるさまざまなニーズに対応します。



### ヘルスケア Healthcare

座ったままで呼吸数や心拍数など生体情報をモニターするバイタルセンシングをはじめ、当社の「SENSORING™」バラエティと通信モジュールを組み合わせることで、健康情報管理などに適した「身守りサービス」をご提案。また、各種ヘルスケア機器に搭載されるコンポーネントから、当社ならではのモジュール製品まで幅広くご紹介しました。



### 環境・エネルギー Environment & Energy

各種セット機器の更なる省エネルギー化に加え、電力の見える化やピークコントロールなどのニーズが高まるなか、搭載される電子部品にも同様の対応が求められています。エネルギーマネジメントに欠かせないキーデバイス小型・薄型かつ高精度化することで、さまざまな機器への組み込みを容易にしたセンサ、通信モジュールをご紹介しました。



## SHOW REPORT\_1

### 環境に優しい電子部品を生み出す「アルプス・グリーンデバイス(株)」

「環境・エネルギー」コーナーでは、アルプス・グリーンデバイス(株)が開発した「小型・高精度な新型電流センサ」に「低消費電力タイプの通信モジュール」を組み合わせ、効率的なxEMSを実現する各種製品・新技術をご紹介しました。スマート家電や電気自動車の急速な普及に対応していきます。



## SHOW REPORT\_2

### 個人株主様「ALPS SHOW 2012」ご招待

9月22日、個人株主様をお迎えし、見学会を行いました。なお、見学会に先立ち、「個人株主様説明会」を開催。米谷専務取締役から当社のホーム・モバイル市場やオートモーティブ市場における今後の技術の方向性などについてご説明し、当社へのご理解を深めていただきました。



# 人と社会の新しい未来を拓く、先進のテクノロジー



## [重点展示の主な製品]

### オートモーティブ Automotive

#### パワーウィンドウスイッチ



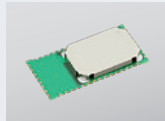
「非接触接点パワーウィンドウスイッチ」は、塵芥の多い空間など、過酷な環境下で高い信頼性を発揮。「メタルサウンド付パワーウィンドウスイッチ」は、シャープな操作音と、クリック感を持つ操作フィーリングを実現します。

#### 車載用地上デジタルフルセグTVチューナー



車室内でデジタル放送の視聴を可能にするTVチューナー。本製品は、容積従来比85%減の小型化・薄型化を実現し、低消費電力、高感度、高妨害耐性を追求。ハイブリッドカーや電気自動車の低消費電力ニーズに対応します。

#### アンテナ付車載用Bluetooth® HCIモジュール



スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどを車載機器とつなぎ、ハンズフリー通話や音楽を車内で聴くことができます。当社は2.4GHz帯の高周波通信の実現と各国電波法に対応し、アンテナの一体化により設計・開発の負荷軽減に貢献します。

### ヘルスケア Healthcare

#### タクトスイッチ® サイドブッシュ™ ミッドマウントタイプ



血糖値計や歩数計、体温計などのヘルスケア製品に対応したスイッチは、小型・薄型化に加え、落下を想定した強度や屋外使用に対応できる防塵性などが求められます。当社では高い強度と防塵性を誇るスイッチを展開しています。

#### 発電入力デバイス



押しボタン式のスイッチの中に、磁石とコイルなどで構成する発電機構を組み込み、一連の操作で、入力と通信をバッテリーレスで行います。ナースコールや、患者の離床検知など、電力供給が困難な機器に最適なデバイスです。

#### 光センサ



紫外域から近赤外域までにある3種類の波長の光を同時に検知できるセンサです。スマートフォンなどへ内蔵することで、屋外で紫外線を手軽に確認できるようになり、日焼け止め対策などに応用が可能です。

### スマートフォン Smartphone

#### 静電式タッチパネル (F2センサ)



従来の静電容量式タッチパネルは、XとY軸の電極を別々に形成し2枚のフィルムを貼り合わせていましたが、本製品は、厚さ50マイクロメートルの1枚の樹脂フィルム上にX軸、Y軸の電極を配置することで薄型化を実現しています。

#### カメラ付小型携帯機器向けオートフォーカス用アクチュエータ



高い応答性と光軸ズレの少ないVCM (Voice Coil Motor) 方式を採用。アクチュエータの小型化に取り組み、カメラモジュールの低背化に貢献。スマートフォン、タブレットPC、ゲーム機、ノートPCなどの薄型化に貢献します。

#### microSIMカードコネクタ



当社のmicroSIMカードコネクタは、業界最薄クラスかつ低消費電力化を実現しつつ、逆挿入防止構造や高信頼性のメディア検出機能を搭載。スマートフォン、タブレットPCなど、小型・高性能化するモバイル機器に対応します。

### 環境・エネルギー Environment & Energy

#### リカロイ™ パワーインダクタ\*



各種CPUなどのスイッチング周波数の高周波化に対応し小型・高効率を実現した本製品。新世代磁性材料として注目されている当社独自開発の「リカロイ™」を採用することで、小型ノートPCをはじめとする各種モバイル機器の長時間駆動に貢献します。

#### エネルギーマネジメント用電流センサ\*



オリジナルの高感度磁気素子を用いた、コアレス構造の電流センサ。独自の設計で小型・軽量化を実現。スリット構造により、既設配線に電気工事を行うことなく後付可能で、xEMSなどの電力監視用途向けに最適です。

#### 湿度センサ



当社の湿度センサは、乾燥状態から結露に近い状態までの幅広い湿度領域下での使用が可能であり、また低消費電力、業界トップクラスの小型・薄型化が特長です。このセンサを住宅内に取り込むことで、エアコンの効率的な空調管理などに活用して、節電向上に役立てます。

\*アルプス・グリーンデバイス(株)の製品です。



## 2012年

- 8月 ● 中国にてヘルスケア事業の合弁会社「SHENYANG XIKANG ALPS TECHNOLOGIES CO., LTD.」を設立
- 9月 ● リカロイ™ パワーインダクタ「GLMHシリーズ」発表
  - 「ALPS SHOW 2012」開催
  - 駐日アイルランド大使が古川工場を表敬訪問
- 10月 ● 「CEATEC JAPAN 2012」に出展
  - 2012年度第2四半期決算発表
- 11月 ● 「おおさき産業フェア2012(宮城県大崎市)」に出展

(注)下線のトピックスを以下に詳しくご報告しています。

## ■中国にてヘルスケア事業の合弁会社「SHENYANG XIKANG ALPS TECHNOLOGIES CO., LTD.」を設立

当社は、8月15日、中国においてヘルスケア事業で実績のある NEUSOFT XIKANG HEALTHCARE TECHNOLOGY社と合弁で、中国遼寧省瀋陽市にヘルスケア市場向けの製品開発と技術コンサルティングサービスを事業内容とする「SHENYANG XIKANG ALPS TECHNOLOGIES CO., LTD. (シェンヤン・シーカン・アルプス・テクノロジーズ)」を設立しました。

中国では、昨今、傷病予後や慢性病の管理、高齢化対策などの社会問題が顕在化しつつあり、健康管理のための商品やサービスが注目されています。

当社がこれまで電子部品開発で培った各種技術を生かし、これらのニーズにあった電子部品の開発、製造を共同で進めます。また、センシング及びネットワーク技術を応用することで、我が国でも注目されている離れた場所にいるお年寄りや子供の状況を確認できる「見守りサービス」商品などの研究開発・製造も行っていく予定です。

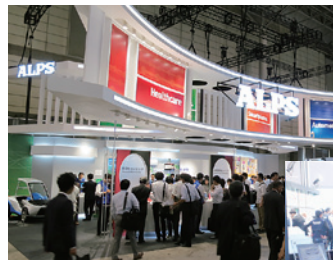
## ■「CEATEC JAPAN 2012」に出展

10月2日から6日、当社は千葉県千葉市の幕張メッセで開催されたアジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス総合展示会「CEATEC JAPAN 2012」に出展しました。

今年の開催テーマ、「Smart Innovation ー豊かな暮らしと社会の創造」の下、当社は電子部品ゾーンに展示スペースを設け、4つの重点市場(スマートフォン、オートモーティブ(自動車)、環境・エネルギー、ヘルスケア)の最新の製品や技術について、体験展示や動作展示を中心に紹介を行いました。

また、当社が出品した車載用次世代入力デバイス「マルチモーダルコマンド」が「クルマの新しい操作方法を提案する夢のある技術」と評価され、「CEATECアワード2012」の次世代イノベーション・キーテクノロジー部門の準グランプリを受賞しました。これにより、テレビ局などの国内外のマスコミメディアから注目を集め、数多くの取材を受けました。

さらに、同期間中のキーノートスピーチでは、天岸取締役技術本部長兼モジュール担当が「～Only One, First One, Number Oneに向けて～技術革新への対応」と題して、500人を超える聴講者に講演を行い、当社概要紹介や、車載製品などを例にして従来の機構メカ部品を中心としたすり合わせ技術に加え、IC設計やソフトウェアとの融合が、今後の技術開発には不可欠であることなどが話されました。



連日盛況だった当社ブース



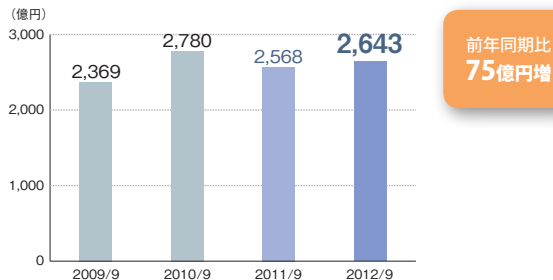
次世代入力デバイス「マルチモーダルコマンド」

## 連結業績の概況 2012年4月1日から2012年9月30日まで

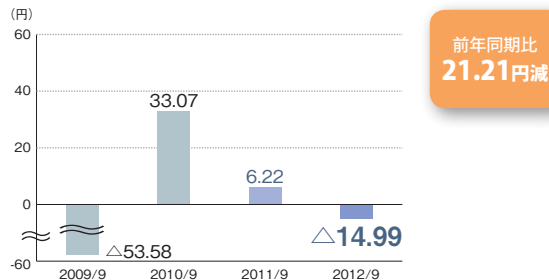
当第2四半期連結累計期間の当社グループにおける連結業績は、売上高2,643億円(前年同期比2.9%増)、営業利益28億円(前年同期比61.6%減)、経常利益17億

円(前年同期比69.7%減)、四半期純損失は26億円(前年同期における純利益は11億円)となりました。

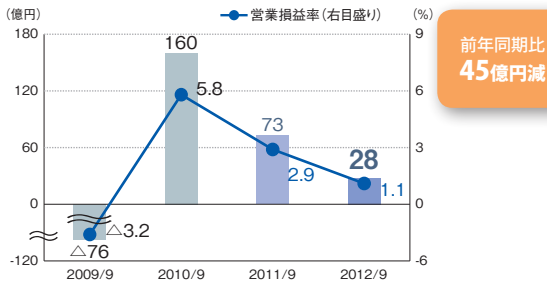
### 売上高



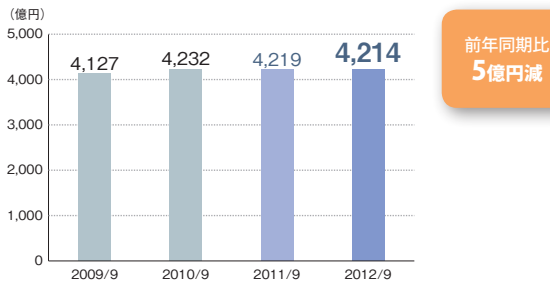
### 1株当たり四半期純損益



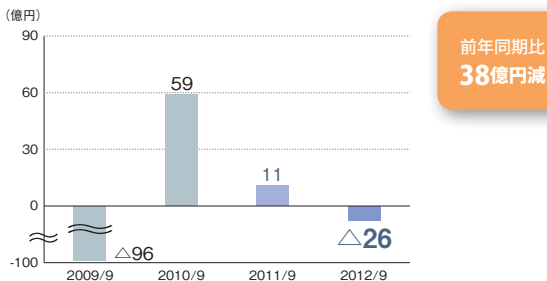
### 営業損益・営業損益率



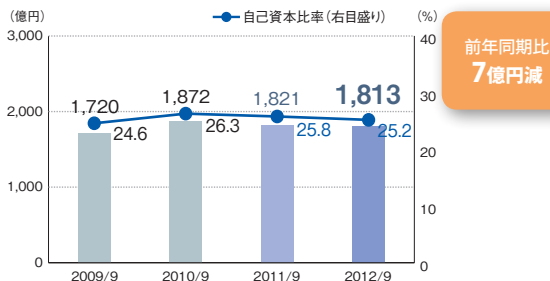
### 総資産



### 四半期純損益



### 純資産・自己資本比率



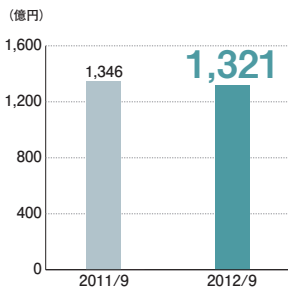
(注)単位は億円未満切り捨て。よって、グラフ中の数値に差異が生じる場合があります。

電子部品事業

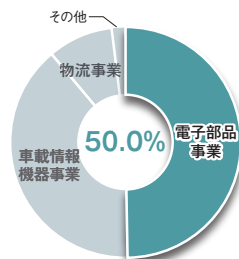


好調に売上推移した当社車載市場向け製品群

●売上高



●売上高構成比

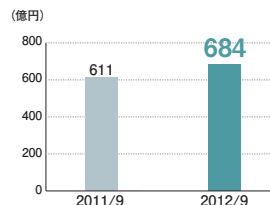


当エレクトロニクス業界においては、世界景気の低迷に加え、新興国メーカーの台頭などが影響し、テレビやパソコンなどのデジタル民生機器向け電子部品が伸び悩みました。さらに円高基調が続いている影響もあり、売上高・利益ともに期初の予想を下回る結果となりました。

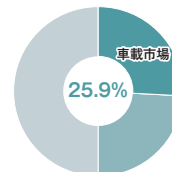
この結果、当事業の売上高は1,321億円(前年同期比1.9%減)、営業損失は8億円(前年同期における営業利益は17億円)となりました。

■車載市場

●売上高



●売上高構成比

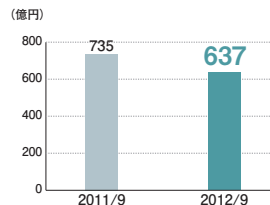


車載市場においては、当社のグローバル生産・販売ネットワークを生かし、おおむね順調に増加基調で推移しました。自動車の安全性や省エネ向上のための電子化が今後も進展する見通しであり、センサや高周波部品などの独自製品開発に注力し、自動車メーカー各社とのパートナーシップを強固にして、積極的に拡販していきます。

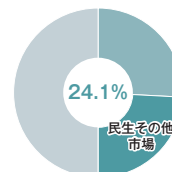
当第2四半期連結累計期間における当市場の売上高は684億円(前年同期比12.0%増)となりました。

■民生その他市場

●売上高



●売上高構成比



民生その他市場では、スマートフォン市場が急成長する一方、テレビやパソコンなどの民生機器向け部品が低調に推移しました。スマートフォン向けのタッチパネルなどのコンポーネント製品の一部については、顧客の計画変動などの影響を受け、売上高・利益ともに前年同期実績を下回りました。今後、確かな拡販活動推進とともに、節電・省エネ市場の拡大に伴う新製品投入を積極的に行っていきます。

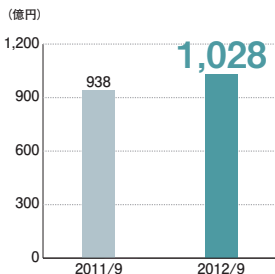
当第2四半期連結累計期間における当市場向けの売上高は637億円(前年同期比13.4%減)となりました。

(注)従来の「AUTO事業本部」及び「HM&I事業本部」は、それぞれ「車載市場」及び「民生その他市場」に表記を変更しています。

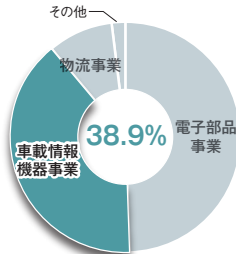


### 車載情報機器事業(アルパイン株式会社)

#### ●売上高



#### ●売上高構成比



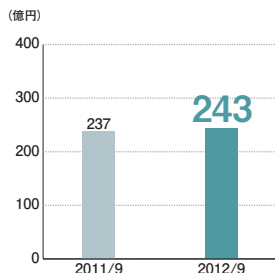
車載情報機器事業(アルパイン(株)・東証一部)では、中近東やブラジルでの販売・生産体制の構築や、米国にクラウドコンピューティングの研究開発会社を設立、新製品開発に取り組みました。自動車メーカー向け売上高が伸びましたが、円高の影響、日米欧の市販市場の販売競争の激化、部材の高コストが収益を圧迫し、厳しい状況で推移しました。

この結果、当事業の売上高は1,028億円(前年同期比9.6%増)、営業利益は11億円(前年同期比62.8%減)となりました。

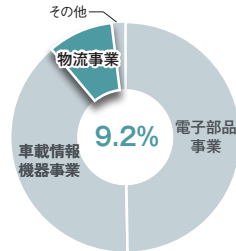
(注)事業名称変更に伴い、従来の「音響製品事業」から「車載情報機器事業」に表記を変更しています。

### 物流事業(株式会社アルプス物流)

#### ●売上高



#### ●売上高構成比



物流事業((株)アルプス物流・東証二部)では、新規・深耕拡販を図るとともに、「絶対品質」の追求など、事業体質の強化に取り組みました。また、中国・重慶の倉庫新設や内陸部への長距離輸送サービスの拡充、韓国での物流機能の強化、タイで第4の拠点開設など、グローバルに拠点及びネットワークの強化を進め、取扱貨物量の拡大に努めました。

この結果、当事業の売上高は243億円(前年同期比2.8%増)、営業利益は19億円(前年同期比8.9%増)となりました。

### 連結財務諸表(要約)

#### 連結貸借対照表

(単位:億円)

	第79期 連結会計期間末 ('12.3.31)	第80期 第2四半期会計期間末 ('12.9.30)
<b>資産の部</b>		
<b>A</b> 流動資産	2,757	2,539
<b>B</b> 固定資産	1,663	1,674
有形固定資産	1,209	1,259
無形固定資産	93	108
投資その他の資産	359	305
<b>資産合計</b>	<b>4,420</b>	<b>4,214</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,063	1,637
固定負債	426	763
<b>負債合計</b>	<b>2,489</b>	<b>2,400</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	1,360	1,316
その他の包括利益累計額	△206	△255
少数株主持分	777	752
<b>純資産合計</b>	<b>1,931</b>	<b>1,813</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,420</b>	<b>4,214</b>

#### A 流動資産

流動資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少と、たな卸資産の増加などにより、前連結会計年度末と比べ217億円減少の2,539億円となりました。

#### B 固定資産

固定資産は、機械装置及び運搬具、ソフトウェア取得等に伴う無形固定資産の増加と、投資有価証券、前払年金費用の減少などにより、前連結会計年度末と比べ10億円増加の1,674億円となりました。

## 連結財務諸表(要約)

## 連結損益計算書

(単位:億円)	第79期 第2四半期 (11.4.1~ 11.9.30)	第80期 第2四半期 (12.4.1~ 12.9.30)	前年同期比 増減
売上高	2,568	2,643	75
売上原価	2,104	2,213	108
売上総利益	464	430	△33
販売費及び一般管理費	390	402	11
<b>A 営業利益</b>	73	28	△45
営業外収益	13	10	△2
営業外費用	30	21	△8
経常利益	56	17	△39
特別利益	14	19	4
特別損失	13	1	△11
税金等調整前四半期純損益	57	34	△23
法人税、住民税及び事業税	26	28	2
法人税等調整額	4	26	21
少数株主利益	15	6	△8
四半期純損益(△)	11	△26	△38

## 包括利益計算書

(単位:億円)	第79期 第2四半期 (11.4.1~ 11.9.30)	第80期 第2四半期 (12.4.1~ 12.9.30)	前年同期比 増減
少数株主損益調整前四半期純損益(△)	26	△20	△46
その他の包括利益合計	△88	△74	14
四半期包括利益	△62	△95	△32

**A 営業利益**

テレビやパソコンなどのデジタル民生機器向け電子部品の売上の伸び悩み、円高などにより、営業利益は28億円(前年同期比45億円減)となりました。

(注)単位は億円未満切り捨て。よって、表中の数値に差異が生じる場合があります。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)	第79期 第2四半期 (11.4.1~ 11.9.30)	第80期 第2四半期 (12.4.1~ 12.9.30)	前年同期比 増減
<b>A 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	72	44	△27
<b>B 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	△141	△203	△62
<b>C 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	△63	△9	53
現金及び現金同等物に係る換算差額	△29	△21	8
現金及び現金同等物の増減額	△161	△190	△28
現金及び現金同等物の期首残高	984	850	△134
現金及び現金同等物の期末残高	823	659	△163

**A 営業活動によるキャッシュ・フロー**

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、44億円(前年同期は72億円の増加)となりました。この増加は、主に税金等調整前四半期純利益34億円、減価償却費104億円による資金の増加と、たな卸資産の増加83億円及び法人税等の支払額35億円による資金の減少によるものです。

**B 投資活動によるキャッシュ・フロー**

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、203億円(前年同期は141億円の減少)となりました。この減少は、主に電子部品事業を中心とした有形及び無形固定資産の取得による支出198億円によるものです。

**C 財務活動によるキャッシュ・フロー**

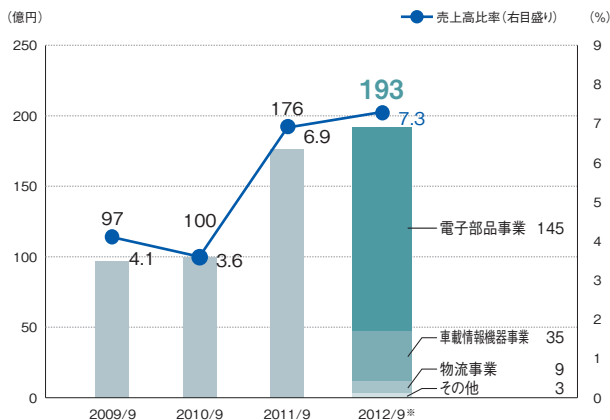
当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、9億円(前年同期は63億円の減少)となりました。この減少は、主に長期借入金の返済による支出410億円、配当金の支払額17億円による資金の減少と、長期借入れによる収入の増加361億円及び短期借入金の純増加額72億円による資金の増加によるものです。

(注)単位は億円未満切り捨て。よって、表中の数値に差異が生じる場合があります。

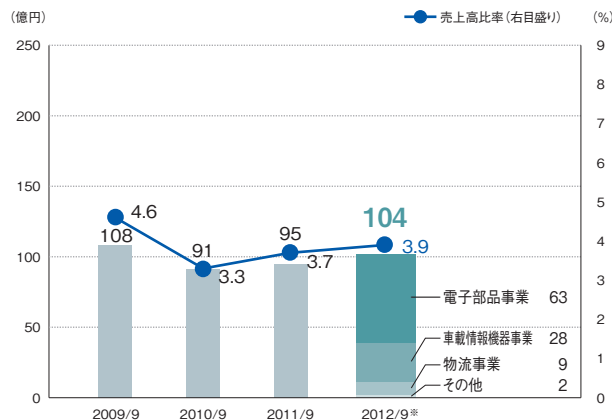
設備投資・研究開発・減価償却・たな卸資産の推移

※内訳には連結消去を含んでおりません。

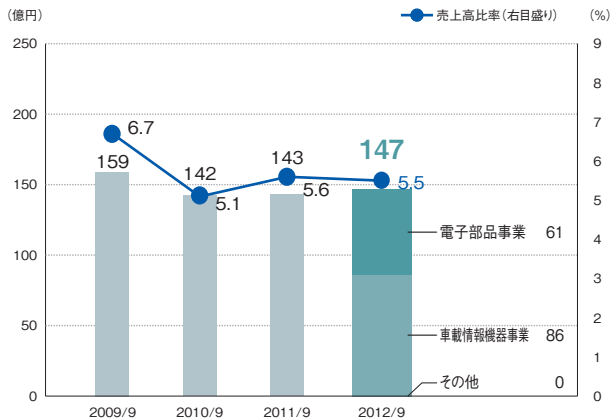
設備投資額



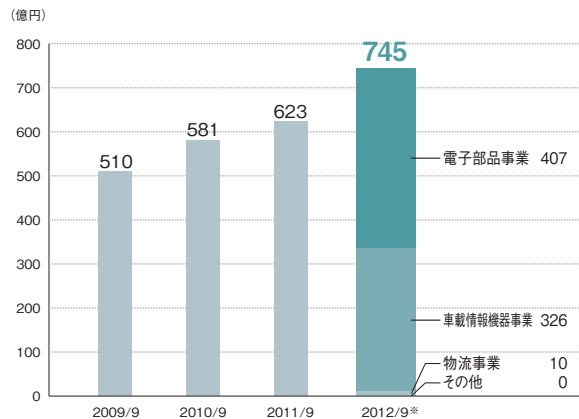
減価償却費



研究開発費



たな卸資産





## 株主Q&A

株主の皆様から  
頂いたご質問とその答えをご紹介します。

### Q 配当を受け取る際の税金が変わると聞きました。 どのように変わるのですか？

A 東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源確保に関する法律の施行に伴い、株式などの配当などに係る所得税額に2.1%掛けた額の追加課税（「復興特別所得税」）がされることとなります。

### Q いつから変わるのですか？

A 「復興特別所得税」は、平成25年1月1日から平成49年12月31日の間に支払われる株式などの配当などに課税されます。なお、今回お支払いする当社の中間配当には、「復興特別所得税」は課税されません。

### Q 税率はどのようになりますか？

A 「所得税」や「住民税」を含めて、源泉徴収が行われる場合の税率は、以下の通りです。ただし、内国法人には、住民税は徴収されません。

	平成24年 12月31日まで	平成25年 1月1日から 平成25年 12月31日まで	平成26年 1月1日から 平成49年 12月31日まで	平成50年 1月1日から
所得税	7%	7%	15%*	15%
復興特別所得税	—	0.147%	0.315%	—
住民税	3%	3%	5%*	5%
合計	10%	10.147%	20.315%	20%

※証券税制における軽減税率の適用終了による税率の変更です。

## 株式情報

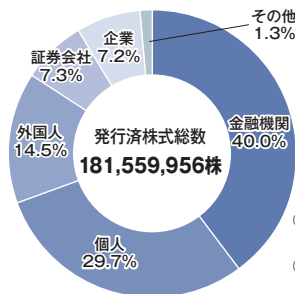
### ■ 株式状況

会社が発行する株式の総数 発行済株式総数  
500,000,000 株 181,559,956 株

### ■ 大株主の状況(2012年9月30日現在)

株主名	株式数	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,250,300	8.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,149,600	8.34
全国共済農業協同組合連合会	7,400,000	4.08
株式会社東芝	4,075,200	2.24
JPモルガン証券株式会社	3,693,300	2.03

### ■ 所有者別分布状況(2012年9月30日現在)



(注)その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式です。

(注)個人は、個人・持株会名義の株式です。

## IR情報Webサイトのご案内

### IR情報

直近の財務諸表からよく頂くご質問まで、分かりやすいメニュー構成で必要な情報入手できます。2012年の主なIR活動のカレンダーも掲載しておりますのでご確認ください。



### IRニュース

当社株式に関連する新しいニュースが掲載されているコーナーです。

<http://www.alps.com/j/ir/index.html>